

当所における死亡事故発生について

平成27年1月20日、当所1、2号機廃棄物処理建屋において、廃棄物の濃縮装置の点検準備作業を行っていた協力企業作業員の方が、点検治具に頭を挟まれ、死亡する事故が発生しました。

お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さまに謹んでお悔やみ申し上げます。

発電所で共に働いていた方をこのような痛ましい事故で失ったことは痛恨の極みであり、厳粛に受け止め、深くお詫び申し上げます。

当所では、このような事故が二度と起こらないよう、発生した原因等をしっかり調査するとともに、災害撲滅に向け安全管理を徹底してまいります。

平成27年1月20日

福島第二原子力発電所長 設楽 親

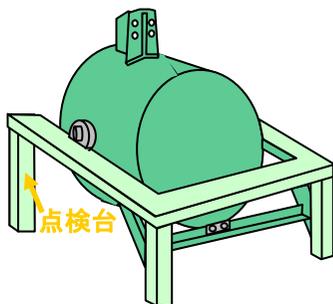
○事故時の状況



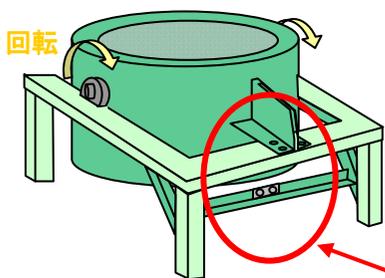
構内図面



点検治具と点検台



事故発生前



事故発生後

事故発生場所（推定）



1月20日臨時会見の様様

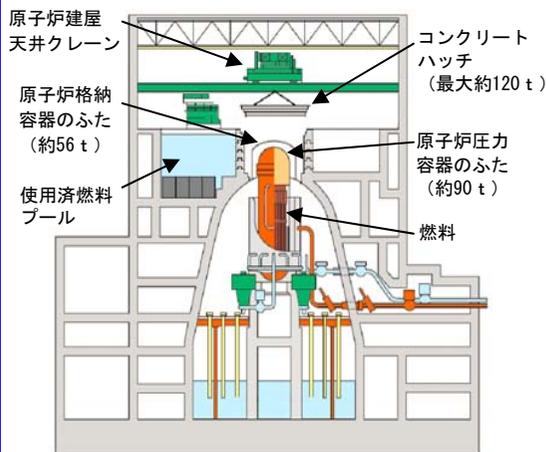
写真手前より

福島第二原子力発電所長 設楽 親
福島第一原子力発電所長 小野 明
福島復興本社代表 石崎 芳行

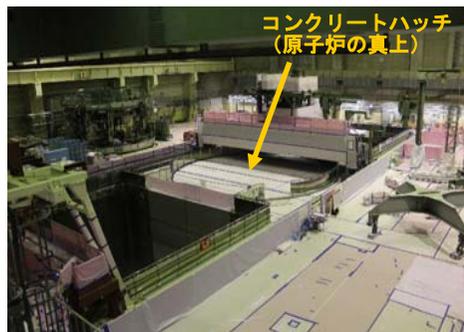
3号機の燃料移動に先立ち 原子炉開放作業を行います

- 当所では、設備の維持管理の簡素化の観点から、原子炉の燃料を使用済燃料プールへ移動することとしており、3号機では、今年度中の実施に向けて準備を進めています（1、2、4号機は燃料移動済み）。
- 原子炉開放作業*は10日程度かけて行い、原子炉格納容器や圧力容器のふた等を取り外します。作業は、原子炉建屋天井クレーンを使用して、重量の大きい構造物を順次取り外していきます。安全に作業を行えるよう、事前にクレーンの点検を入念に行いました。
- 安全確認を十分に行ったうえで、慎重に作業を進めていきます。
- なお、先月号(12月号)でお知らせした燃料を収納するラックの外観目視点検は、ラックの表面や下部のボルト等が健全であることを確認しました。

原子炉建屋概略断面図



* 原子炉開放作業
コンクリートハッチ、原子炉格納容器のふた、原子炉圧力容器のふた、蒸気乾燥器、気水分離器などを天井クレーン（吊上荷重125t）で吊り上げて、取り外す作業です。

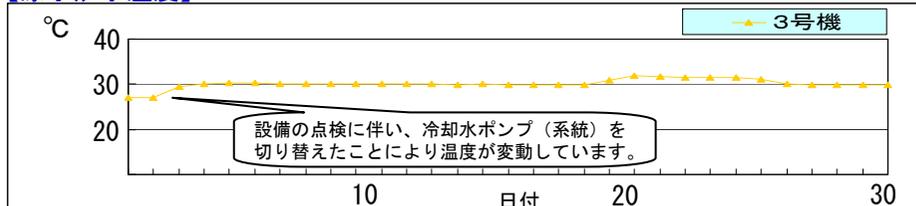


【プラントデータ】

燃料の冷却状況（12月分）

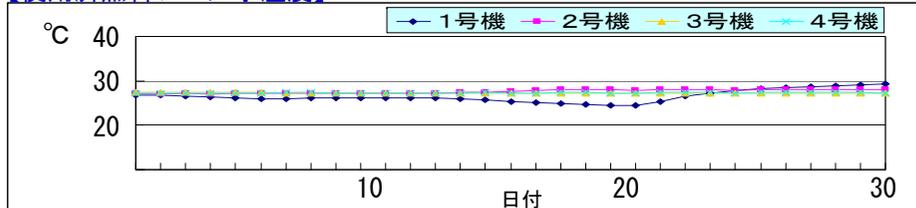
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【原子炉水温度】



1号機は平成26年7月10日、2号機は平成25年10月16日、4号機は平成24年10月24日に、原子炉内から764体の燃料すべてを取り出し、使用済燃料プールへ移動しました。

【使用済燃料プール水温度】

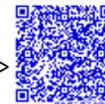


さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。

<URL>

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

<QRコード>



警察と連携した警備訓練を定期的実施しています

- 当所は、安定した燃料冷却を継続するための要員の他、発電所のセキュリティーを確保するための警備要員も24時間体制で配置しています。
- 警備要員は、発電所に入出入りする人員や持ち込まれる物品のチェックなどを厳重に実施しています。また、警察との連絡体制を整備し、定期的に連携訓練を行い、有事に備えています。
- 引き続き、発電所のセキュリティー強化・向上にしっかりと取り組んでいきます。



1月13日に実施した警備訓練